

## 人体生物系専攻

### 人材養成および教育研究上の目的

---

人体生物系専攻においては、分子生物学領域における高度な専門的知識及び技術を有し、医学の発展に寄与する優秀な人材を養成することを教育の理念とする。本専攻の教育に重点を置くとともに、各専攻分野を有機的に関連づける能力、人体構造・機能の解明を目指す過程で分子生物学的・病理学的解析法を身に付け、幅広い応用分野に対応できる総合的な教育・研究者を養成することを目的とする。

### 三つのポリシー

---

#### ❖ アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

入学選考にあたっては、意欲および多様性を有する次のような人材を求める。

- 1) 生体構造学、分子細胞生物学、細胞分子制御学における高度な知識と研究能力の取得を志す人
- 2) 生命医科学全般に関する十分な基礎知識を有する人
- 3) 国際的に通用するコミュニケーション・プレゼンテーション能力を有する人

#### ❖ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人体生物系専攻には、生体構造学、分子細胞生物学、細胞分子制御学の3専攻科があり、院生はいずれかの専攻科のもとで研究を開始する。

本専攻は、以下の項目を重視してカリキュラムや講義を編成する。

- 1) 分子生物学・生体物理学・病態生理学的な実験・解析法を修得できる実践重視のカリキュラム
- 2) 幅広い応用分野に対応できる総合力のある研究者の養成を目指した講義内容
- 3) 国外学術会議での研究成果発表ができるカリキュラム

#### ❖ ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科博士課程では、その教育理念や目的に即する人材を育成するため、各教育課程で必要な単位を修得し、当該分野の専門誌に公表あるいは採択された論文に対する公開審査に合格した者に学位を授与する。なお修了にあつては、以下の点に達していることを目安とする。

- 1) 医科学の分野で広く活躍するのに必要な幅広い知識・技能と問題解決能力を有する。





- 2) たゆまぬ自己研鑽によって、より高度な知識・技能や倫理観を身に着け、医学研究の発展に寄与できる姿勢を有する。
- 3) 国際社会や地域社会に積極的に貢献する意欲や実践力を有する。

